1 (1)(3)各完答 (4)(5)各順不同完答	
(1) A ウ B ア C イ (2) イ 胚乳 ウ 子葉 オ 子葉 ケ 胚乳	į
(3) A イ B オ C ケ (4) イ, エ, オ, ク, ケ (5) イ, エ	
2 (1)~(3)各順不同完答 (4)完答	
(1) A D E (2) A と B (3) A と D (4) ① オ ② イ ③ エ	
3 (2)順不同完答	
(1) ① 5 枚② 5 本② イ,ウ (3) エ (4) 受粉 (5) イ	
(6) エ (7) イ (8) イ (9) イ	
4	
(1) ウ (2) B しょっかく 複眼 F 気門	
(3) Y (4) B (5) C (6) F (7) 気管	
5 (1)(2)(3)(4)各順不同完答(6)各カタカナ指定	
(1) オ,カ,ケ (2) キ,コ,ソ (3) サ,タ (4) イ,エ,ク,セ	
(5) ア う イ い ゥ あ エ え (6) ア アオムシ コ ボウフラ	
6	
$\left \begin{array}{c cccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
(4) 体	
7	
(1) イ (2) ア (3) ウ (4) イ	
8	
(1) 工 (2) 74 g (3) 3 g	

[配点] 3:各1点×10

他:各2点×45

希学園 新小5 第1回 習熟度確認テスト 理科 2025年3月20日実施 解説

1

- (4) 発芽のための養分を胚乳にたくわえている植物(有胚乳種子)は、裸子植物、単子葉植物、ゴマ、オシロイバナ、カキなど。
- (5) 発芽時に子葉が地中に残る植物は、エンドウ、ソラマメ、アズキ、クリ、コナラ、カシなど。

2

それぞれの条件を表に整理して解く。

	A	В	С	D	Е
水	0	X	0	0	0
空気	0	0	×	0	0
光	0	0	0	X	0
肥料	×	×	×	×	0
結果	0	×	×	0	0

対照実験では、比べたい条件1つだけを変え、あとの条件は全てそろえて比較する。

発芽に水が必要かどうかを調べるとき…AとB 発芽に空気が必要かどうかを調べるとき…AとC 発芽に光が必要かどうかを調べるとき…AとD 発芽に肥料が必要かどうかを調べるとき…AとE

3

- (2) ジャガイモはナス科, ユウガオはウリ科, アブラナはアブラナ科である。
- (3) アはツツジ,イはユリ,ウはマツの花粉である。
- (5) \sim (7) おしべを取りさることで自家受粉を,ふくろをかぶせることで他家受粉を防いでいる。実験 1 では他のアサガオの花粉をつける操作をしているのでめしべがふくらんでいくが、実験 2 ではめしべがふくらんでいない。
- (8) 自家受粉することができる植物を選ぶ。他の自家受粉できる植物には、イネやコムギ、トマトなどがある。
- (9) マツ, カエデは風によって, オナモミは動物の体にくっついて種子が運ばれる。

4

(1) モンシロチョウの幼虫はアブラナ科の葉を食べる。成虫も、産卵のためにアブラナ科の植物の近くで見られる。

6

- (2) 加熱を始めて4分後にとけ始めて、20分後にとけ終わる。状態変化に熱が使われるので、この間温度は上昇しない。
- (3) 加熱を始めて20分後から40分後までの20分間,液体の水の温度が上昇する。
 - 20 分間で 100 C上昇するので 100 C ÷ 20 分= 5 C/分
- (5) ふっとうして気体になった水蒸気が、空気中で冷やされて液体になったものが湯気である。

7

- (1)(4) 内炎では、すすが熱せられて明るくかがやいている。
- (2)(3) 外炎では、気体のろうが酸素とよくふれて完全燃焼しているので、最も高温になっており、わりばしが焦げやすい。

8

- (2) 表より、物質Aは60℃の水100gに37gまでとかすことができる。 水量が2倍になると、とかすことができる量も2倍になるので 37g×2=74g
- (3) 表より、物質 B は 40℃の水 100gに9gまでとかすことができる。

12gくわえると、とけのこる量は 12g-9g=3g